

千話万来

2024年3月316号

株式会社シイビイシー 小玉亜衣

人事教育コンサルタント・産業カウンセラー・生産性賃金管理士

TEL 027-266-6855 FAX 027-266-6856

E-mail kodama@linxcbc.co.jp

〒379-2121 群馬県前橋市小屋原町1082-3

— 経営方針発表会に出席させていただきました —

年度初めに毎年行っている群馬県の機械製造業の経営方針発表会に出席させていただきました。ここ数年で、経営方針や経営戦略が的確になってきており、また、それに対してほぼ実行できているので、企業運営の中身がとても良くなってきている企業さんです。数年前の状態を思い出すと成長したことをすごく実感できます。

「会社を良くして行く為には、何をしなければならないのか」を考え、現状と向き合い、出来ていないこと、なんとなく取り組んでいたこと、の一点一点にきちんと取り組んで来ました。仕組み化も進んで来ました。

まだまだやらなければならないことはたくさんありますが、長い暗闇のトンネルをがむしゃらに走っていたところから、目指す方向性がきちんと見え、今やるべき事やペース配分なども上手になりました。個人商店の集まりになりかけていた各部門のチームワークもかなり良くなりました。

経営方針書はオーケストラで言う楽譜のようなものです。その内容を理解し、指揮者のタクトに合わせて進めていくことが重要です。

皆さんの会社では、経営方針書を作りこめていますか？また、方針書の中身を従業員全員が理解できていますか？

— 改善活動発表会を行いました —

改善活動推進研修を始めて丸5年が経った栃木県の製造業です。今回は8部署のサークルが1年間取り組んできた改善活動の発表を行いました。

回を重ねるごとに、取り組み方も取り組み内容も、発表の仕方も驚くほど上手になっています。

毎年4月にスタートして、月に1回2時間の研修で改善活動の進め方のポイントを勉強しながら、実際の自部署のサークルごとに改善活動を進めて行きます。

業務が忙しい時には、改善活動の時間を取るが大変そうでしたが、業務時間の使い方や時間の取り方を工夫したりすることも勉強になります。どんなデータが必要なのか、どんなことに気を配る必要があるのかなども、回を重ねる中で試行錯誤しながら身に付けて行きます。

改善活動を行うことで、自分達の作業の中のコスト意識が芽生えてきます。少しでもムリ、ムダ、ムラを減らそうという考え方になってきます。作業者の一人一人が自分達の作業を見直し、改善していく力が着くと、生産性も自然と良くなっていきます。上司から指示された作業変更はやらされごとですが、自分で取り組んだことは自分事として前向きに取り組む継続します。

— 定期的に考課者研修を行っています —

毎年定期的に考課者研修を行っている企業があります。評価をするということに真剣に取り組み、社員に対して誠実に向き合っている姿勢なのだと感じます。

正しく、公平な評価を行うためには、考課者のレベルアップが必要です。新たに役職につき、考課者になった人には、新任考課者研修を行い、既存の考課者にも年に一度は考課者研修を行い、考課者が正しい評価が出来るように会社側がサポートしています。

評価をするというのは、評価表が配られた時に行うのではなく、日頃から部下の様子を観察して記録しておく必要があります。

日々どれだけ見ることが出来ているか、知ろうとしているかが肝心です。自分の記憶を過信せずに、記録を残しておくことをお勧めします。

忘れてしまったり、あいまいな記憶になってしまったりした行動は評価できません。よって、直近の出来事のみで評価してしまいます。

評価には、必ず評価期間というものがあり、いつからいつまでのことを評価するのか、きちんと線引きをする必要があります。

定期的に評価者研修を受けることで、評価者の意識や評価姿勢を正すことが出来ます。

— 相手の感情や状況を考えて発言していますか？ —

怒りや苛立ちに任せて、心無い発言をしてしまう、言いすぎてしまう、強い言い方をしてしまう事はありませんか？

また、相手の状況(忙しそう、ひどく疲れている、手が離せなそう)を考慮せずに行動を押し付けたり、強要したりすることはありますか？

自分の価値観や考え方、基準を相手に求めすぎていませんか？

人との関わり、コミュニケーション、信頼関係は、とても繊細で多種多様で難しいものです。

感情に任せた発言や状況を考慮しない指示で信頼関係が崩れてしまったり、自分の価値観の押し付けで、周りとうまくコミュニケーションが取れなくなってしまうたりします。

普段から気づきがあり、人との関わりの中で気配りが出来るかどうか？

相手の感情や状況を読み取ることが出来ないと気配りや相手に寄り添う発言は出来ません。

気配りは、決して相手に媚を売ったり、甘やかしたりする行為ではなく、相手の人格を尊重する対応です。相手を一人の人間として、自分と同等に扱っているという表れです。

自分の周りにいる一人ひとりが、自分と違うからこそ、コミュニケーションを取ることは難しくもあります。

周りの人の存在を大事に思っているならば、相手の感情や状況を無視した発言は出来なくなるのではないのでしょうか？

自分自身の価値観や考え方を良く知ること、周りは誰一人として全く同じ価値観や考え方の人はいないという前提でコミュニケーションを取ることで、お互いを尊重することが出来るのだと思います。いつでも人に対して寄りそえる優しい人でありたいものですね。